

## コロンビア大学において講義を行いました（2014/3/14）

テーマ：東京、青山通り、2020 オリンピック、震災復興、都市防災  
場所：コロンビア大学（アメリカ、ニューヨーク州）

2014年3月14日から16日にかけて、ニューヨークのコロンビア大学において当研究所の村尾修教授（地域・都市再生研究部門 国際防災戦略研究分野）が招聘され、開講中の授業に参加するとともに講義を行いました。

コロンビア大学はニューヨーク市マンハッタン区に本部を置くアメリカ合衆国の市立大学です。1754年に設置され、世界的な研究大学としてノーベル賞受賞者を100名以上輩出するなど全世界から多くの研究者、留学生も集まっています。

村尾教授は、そのコロンビア大学の建築・都市計画・歴史保存大学院（Graduate School of Architecture, Planning and Preservation at Columbia University）に招聘され、開講中の授業“Redeveloping Tokyo’s Core”の中間発表に参加しました。当コースでは、2020年オリンピック開催に向けて、少子化や防災対策を考慮した東京の青山地区の今後のあり方を提案する課題が課されています。

まずは学生により、青山地区の現状と今後の都市計画上の課題についての発表があり、村尾教授はそれを受けて、提案に向けて学生達に取り組んでほしい要素について助言しました。

オリンピック開催に向け、災害対策は急務となっており、東京は地震の際に火災の危険性が高く、逃げ遅れが生じやすい危険な密集市街地も多く抱えています。また、資力のない一人暮らしのお年寄りの世帯も多く、住宅の耐震化・不燃化についても課題が多くあります。学生の中間発表後には、村尾教授が「防災管理の面からみた東京（Tokyo from the Viewpoint of Disaster Management）」という題目で講義を行いました。災害大国である日本の知恵と経験を生かした防災管理には、学生達からも非常に高い関心が寄せられ、活発な質疑応答がなされました。



中間発表の様子（青山通りの説明）



中間発表の様子（東京の歴史）



講義の様子



コロンビア大学の皆と村尾教授